

「」の「」では、「」の地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちに、「」の伝説や昔話を教えて、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

むかしむかしのこと。山の中の一けん家に、ぐずどんがおばばと二人でくらしていました。ぐずどんは、十さいになつても何も知りません。毎日、山の中でぶらぶら遊んでばかりいました。

ある日のこと、おばばはぐずどんをよびました。／＼

## 松浦の民話⑧

# 売れなしあきなし

「持つて行つて、だれに売るとな。」

「町にや家がいつぴやある。人もぞろぞろおらす。通りばおらびながら行けば、買う人が出てこらす。」

「どうな、そんなら行つてくるせん。」

「ぐずどんはおばばにそう言ふと、荷をかついで出かけました。山を三つ、谷を

「ぐずよ、お前ももう十さいたい。あきないもしきる」とならんばでけん。」

「おばば、あきないってなんな。」「」にわしが作ったお茶と、山でとれたくりとかきがある。これは町に持つて行つて、売つてくるとたい。」／＼

と一生けん命おらんでみま

した。

一日中、町の中を「ちやくりかき、ちやくりかき。」とおらびながら歩き回りましたが、

「おばば、一日中おらんだが、だれも買ってくれません。」

「おばば、」とおらびながら歩き回りました。」「やあ、ここが町か。なるほど、家も人も数えきれんごた

る。」

「ちやくりかきはいらんかつて、大声出したばい。」

「そぎやん言うてわかるもん

な。茶は茶で、ぶんぶんに言

わにや売るるもんな。あしたも

また行つてきない。」

「あつそうたい。おりやあきないに來たつたい。あきない

をつきました。」

「あくる日、また、三つの山

と一つの谷をこえて町へ行きました。

そこで、ぐずどんは大声を

はりあげました。

「ちやくりかきはいらんか。」通る人たちは、頭をひねりました。

「ちやくりかきつちやなんな。」通りながら、くすくす笑つて行つてしまひます。ぐずどんはまつかな顔をして、

「茶はぶんぶん、かきやぶんぶん、くりやぶんぶんいらんか。」と、声もかずれるほどおらびましたが、やつぱり、一つも売れませんでした。

しかたなく家にもどると、

おばばはあきれ、

「」

（学校外）

＊掲載する場合は、ペンネームを希望する人は、ペンネームも記入ください。

＊はがきで応募される人は、必

要事項を表の下部に記載して

ください。なお、いただいた

個人情報は民話「」以外

には使用しません。

**【応募締切】**11月12日(金)必着  
**【応募・問合せ先】**

松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課

秘書広報係

TEL:0956-72-1111

Eメール:

hisyo@city.matsuura.lg.jp

＊福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

＊福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

＊福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

＊福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

＊福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

＊福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

と言ふと、大きなためいきを三つもつきました。

あくる日も、三つの山と二つの谷をこえて町へ行き、大きな声で、

「茶はべつべつ、かきやべつべつ、くりやべつべついらんか。」

「茶はべつべつ、かきやべつべつ、くりやべつべついらんか。」

と、おらんで歩きました。あんまり大きな声なので、すぐちがう人はたまげた顔をしましたが、さっさと行つてしまします。お日さまが西にかたむいても、やつぱり、一つも売れませんでした。

おばばは一つも売れない荷を見て、ためいきを五つきました。そして、「ああ、おまえを一人であきないに出すとがまちがいやつた。あしたはいつしょに行くせん、はよねろ。」と、言いました。

あくる日、おばばはぐずどんに荷を持たせ、町へ行くと、「茶はいらんか。」

と、おらびました。ぐずどんもまねをして、「茶はいらんか。」

と、おらびます。



むこうから来たおかみさん  
が、お金をさし出しました。  
「かきやいらんか。」  
と、おばばがおらびました。  
「かきやいらんか。」  
後ろから子どもがよつて来ました。  
「くりやいらんか。」  
と、おばばがおらびました。  
「かき、おくれ。」  
「くりやいらんか。」  
と、ぐずどんもおらびました。  
「かきやいらんか。」  
と、ぐずどんもおらびました。  
「かきやいらんか。」  
むすめさんが家から出てきました。  
たちまちみんな売れてしまい、二人はほくほく顔で山へもどりました。

(御厨町田代)

## 松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「つるのおみやげ」のイラストに、5通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



### 【最優秀賞】

ひなぎ  
榎屋瞳凪ちゃん (星鹿・青島、11)

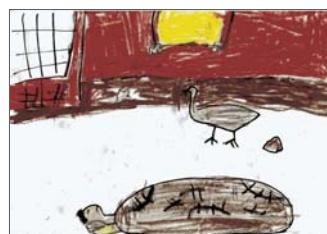
「おじいさんの顔のしわまで丁寧に描かれています。おじいさんと向かい合っているツルが今にも話しかけてきそうですね」  
か



### 【優秀賞】

さやか  
橋本沙弥香ちゃん  
(御厨・池田上、11)

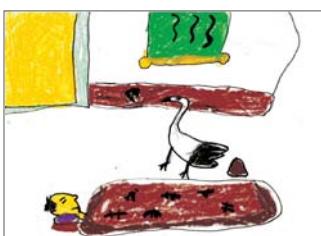
「ツルのフンが丸くてかわいいですね。人間とツルの縁取りがきれいに描かれていますね」  
か



### 【優秀賞】

みく  
松永実紅ちゃん  
(今福・寺上、8)

「太郎べえさんがぐっすり眠ってますね。布団があつたかそうです」  
か



### 【優秀賞】

こはな  
田中小花ちゃん  
(今福・北東1、8)

「掛け軸の緑色と扉の黄色、布団の茶色の色合いが良いですね」  
か



### 【優秀賞】

なお  
宮崎菜央ちゃん  
(今福・木場、7)

「起こさないようにフンをしているツルがよく描けていますね」  
か